

袋田の滝



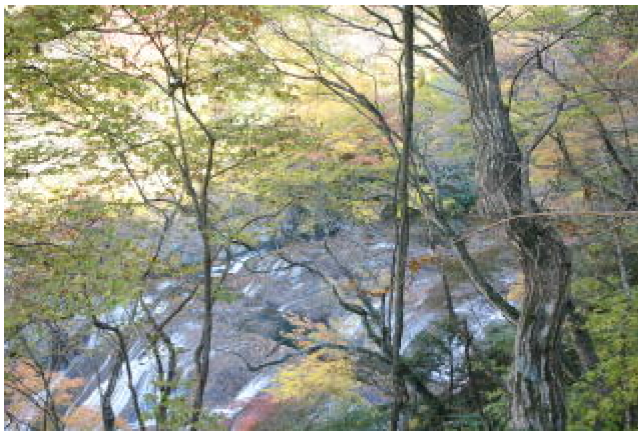
2008年11月14日袋田の滝の紅葉を撮りに出かけた。今秋(9月13日)には新観瀑台が出来たことによって今年の紅葉シーズンは混雑することが予想されていましたが、予想通り、新観瀑台のエレベータの待ち時間は、平日にもかかわらず、2時間弱でした。私は過去に何回もこの滝には来ていますが、このように混雑している状況を見たのは初めてです。

新観瀑台は従来の観瀑台の近くから約50メートル上方にエレベータで上がった場所に設置されているため、4段の滝の一番上の方から滝を見ることが出来ます。また、新観瀑台は従来より後方に配置されているため、滝と観瀑台の間に木があって、滝と緑や紅葉を重ねて視野に入れることが出来ます。写真愛好家にとっては大変都合の良い設計となっています。従来の観瀑台は滝の直近にあるため、滝の轟音を聞きながら、飛沫を浴びて、その豪快さを肌で味わうことが出来ますから、両方の観瀑台が揃ったことによって袋田の滝の価値は大いに上がったと考えられます。観光客が押し寄せる理由がここにあると考えられます。



新観瀑台は3つあって、そのうちの撮影ポイントは中段の第2観瀑台ですが、そこにはすでに多くの3脚が並べられており、上がって直ちに良い写真を撮れる位置には行けませんでした

。太陽の位置などを確認しながら、順番を待っていても、なかなか場所を空けてもらえません。写真愛好家の気持ちは良く理解できるので、アングルなどを確認しながら、待ち続けていると、私の気持ちを察してくれた写真愛好家(プロ?)の方が自分の設置した脚立に乗って撮ってもいいよと場所を空けてくれました。お蔭様で思っていたアングルから写真を撮ることが出来ました。第2観瀑台の左側に大きなもみじの木があって、その紅葉が見事でした。



エレベータを降りてトンネルに戻る途中につり橋経由の帰路があります。つり橋を渡り切って直ぐに、袋田自然研究路の急な階段があり、これを登りました。落ち葉の積もった階段を一步一步登っていくと袋田の滝の上流に出ます。そこでは黄色を主体とした紅葉と滝川の白がマッチしたすばらしい景色がありました。研究路には11番までの番号が付けられていて、再び滝の近くまで戻ってくるように設計されていますが、今回は3番の生瀬の滝まで行って、再び元の道に戻りました。袋田の滝の魅力が増したことを実感する小さな旅でした。

2008年11月